



市民しんぶん 北区版 いきいき 北区



注目記事
2面 こんな時だからこそ、地域のために「私たちができること」
4面 運動不足になっていませんか?～こんなときこそ、屋外で運動を～



日本が誇る様々な伝統文化や芸術。ここでは、北区を拠点に、その伝承・創造に活躍される方々をご紹介します。今回は、雲ヶ畑在住で、第1回京都文学賞最優秀賞受賞作『羅城門に啼く』(松下隆一著/新潮社)の装画で話題の日本画家 服部しほりさんにお話を伺いました。



日々の暮らしで出会う小さな喜びや驚きを伝えたい…



ひしゃげい 飛車鶏 (寸法: 910mm×530mm)

幼少時から描くことが大好き

幼い頃からとにかく絵を描くことが大好き。「何か描くテーマをちょうだい」としきりに催促し、母を困らせていました(笑)。中学生の頃には、友人たちと寺社仏閣巡りを楽しみました。古きより遺る、日本の美しいものや思想を好んでいました。

雲ヶ畑への移住

雲ヶ畑の自然・四季に恵まれた環境と、そこに見事に調和する築100年超の古民家…。私が人生を賭している制作活動に最大の影響を与えてくれそうだと考え、チャレンジをすべく、2年前に京都の市街地からの移住を決意しました。

思索・制作活動に絶好の環境

雲ヶ畑はとにかく静かな場所で、私にとって思索・制作活動に絶好の環境だと感じます。その上、のぞみ(新幹線)が停まる駅からわずか40分で、これほど豊かな自然に囲まれて暮らせる場所はなかなか見つからないと思います。一方、自然災害とは隣り合わせなので、地域の自治・防災意識はとて高く、当事者意識を持って協力する気風があります。温かく寄り添ってくださるご近所の方が心強いです。



日本画家 服部しほりさん

プロフィール

昭和63年京都市生まれ。京都市立芸術大学大学院美術研究科 修士課程修了。日本画の古典技法を活かしつつ、独創的なモチーフを取り入れた墨線の映える線描作品を展開している。
令和2年「京都市芸術新人賞」受賞
令和3年「京都府文化賞奨励賞」受賞

絵を描くこと、創作への思い

日々の暮らしで出会う、ちょっとした気づきをピックアップして描くことが多いです。小さな喜びや驚きを大切にしたい、慈しみたい…、そしてそれらを伝えていきたいという気持ちで描いています。また、どんなことでも「解き明かしたい」という思いが強く根底にあります。物事には道理があり、必ず背景がある。それを追求することが、絵を描くという行為につながっています。同時に、絵に感情や考えを現すことは私にとってある種のヒーリングで、「救い」であることも自覚します。無意識に絵を描き重ねてきた人生ですが、描くことに、こんなにも助けられていたということには、ようやく最近気付いたものです。

新型コロナ・本市財政状況の危機感を地域の皆様と共有 ～地域代表者会議を開催～

1月20日(水)、緊急で各学区の代表者の方々にお集まりいただき、新型コロナウイルスと本市財政の危機的な状況について共有。今後の対応などについて協議を行いました。詳しくは、ホームページをご覧ください。



新型コロナに関する
詳しい内容は



財政状況に関する
詳しい内容は



問合せ先 地域力推進室企画担当 ☎432-1199